



飛鳥歴史公園高松塚地区 シャガの咲く丘

一般参加の「野の花めぐり in 飛鳥」のコースは下の地図の赤いラインで、高松塚地区周辺の植物観察をします。4月定例会はこの赤いコースをたどって下見を兼ねて行いました。

午前中は、高松塚壁画館・高松塚・文武天皇陵の横を通って明日香村平田の野道を散策しながら春の野草の観察をしました。

高松塚地区の芝生広場付近にはシャガの花が一面に咲いていました。野草観察のコースにはシャガのほかにもこの季節に花が咲く野草がたくさんありました。

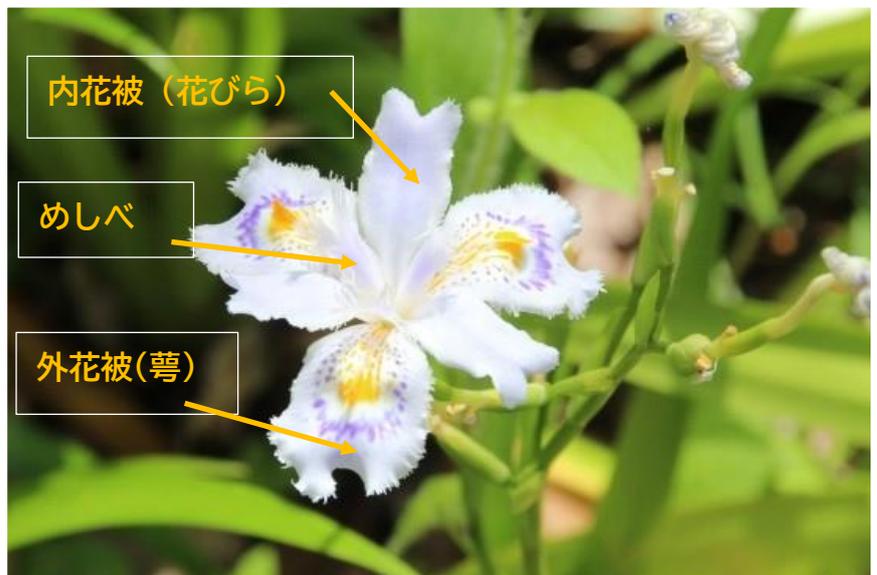


飛鳥歴史公園芝生広場

シャガ アヤメ科常緑多年草

シャガは中国原産で日本には古い時代にはいつてきたようです。シャガは3倍体で種ができません。ですから日本にあるシャガはすべて同一の遺伝子を持っていると言えます。シャガの花には内花被3外花被3めしべ3と雄しべが3(めしべの後ろにある)があります。

5月のこの時期、群生しているシャガが美しく咲いていました。



シャガの葉はつやがあって見かけ上、葉の裏と表があるように思えますが実は右の写真のように葉の表が折りたたまれて中に隠れていて外側は葉の裏になっているのです。シャガはこんなつくりの葉を持っています。



昔から食べていた野草（春の七草など）



セリ（セリ科）



ナズナ（アブラナ科）



ハハコグサ（キク科）
（ゴギョウ）



ハコベ（ナデシコ科）
（ミドリハコベ）



コオニタビラコ（キク科）
（ホトケノザ）



ゼンマイ（栄養葉・胞子葉）
（シダ植物ゼンマイ科）

春の七草はセリ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベラ・ホトケノザ・スズナ・スズシロですが、スズナは蕪、スズシロは大根のことですがこの二つ以外はすべて観察できました。ゼンマイもありました。

毒のある野草



ウマノアシガタ（キンポウゲ科）



キツネノボタン（キンポウゲ科）



タガラシ（キンポウゲ科）



散策したコースではウマノアシガタ・タガラシ・キツネノボタン・ムラサキケマンの4種の毒のある野草がありました。

ムラサキケマン(ケシ科)

タンポポ

カンサイタンポポでは総苞外片は反り返りません。

小花の集まりである頭花は、セイヨウタンポポに比べて小さく、カンサイタンポポの小花の数は少ないようです。タンポポの花びらのように見える一枚一枚が小花です。



総苞外片
反り返らない



総苞外片
反り返っている

カンサイタンポポ(キク科)

セイヨウタンポポ

同じ明日香の高松塚周辺で撮ったカンサイタンポポとセイヨウタンポポを並べてみました。

頭花の大きさと小花の多少を比べてみるとその違いがはっきりしています。やはりカンサイタンポポは小花が少なく花全体がほっそりとした感じです。セイヨウタンポポは華やかでにぎやかな感じがします。すぐ近くにシロバナタンポポもあって飛鳥歴史公園の周辺でもいろいろ混在しています。

そのほか観察した植物

よく似た植物の特徴をよく調べながら観察していきました。



カラスノエンドウ(マメ科)



カスマグサ(マメ科)



スズメノエンドウ(マメ科)

花の大きさや数、花の付き方に注意して観察しました。

カラスノエンドウ・カスマグサ・スズメノエンドウを並べて、写真を撮りました。

花の大きさ

カラス>カスマ>スズメノエンドウ

花の数(一か所につき)

カラス2 = カスマ2 < スズメ 4~6

花の付き方(花柄)

カラス花柄 無、カスマ花柄 有、
スズメ花柄 有



スイバ

(タデ科・葉の基部は矢じり型・食草)
食べるのは春の若芽・薬草・雌雄異株)



ギシギシ

(タデ科・葉の基部はハート形で丸みがある)
食草・食べるのは春の若芽・薬草)



ハルジオン(右)とノアザミ(キク科) ノジスミレ(スミレ科) アリアケスミレ(スミレ科)

定例会は良い天気に恵まれ、心地よいそよ風に吹かれながらの観察会でした。まだまだたくさんの植物に出会いましたが割愛させていただきました。昼食は公園館で食べ、午後は「春のあそび広場」の準備をしました。

「野の花めぐり in 飛鳥」は残念ながら天候が悪かったため中止になりました。次回、このコースで観察会を行えたらいいなと思っています。